

国東市民病院 臨床研究実施計画書

1. 研究テーマ

当院における補聴器診療の検討

2. 研究の背景これまでの研究の概要

高齢化社会に伴い、加齢性難聴に対する取り組みは重要な課題である。高齢者の難聴は、コミュニケーション障害、社会活動の低下によって認知機能障害の危険因子となり得る。難聴への介入として、補聴器の使用は、難聴と同時に認知機能の低下を防ぐと言われている¹⁾。

当院は、大分県国東市(人口 2.6 万)の地域中核病院であり、2023 年 3 月まで非常勤耳鼻咽喉科医の診療環境の下で、自院の補聴器希望患者に対して、提携する補聴器店へ患者を紹介、聴力検査のみで調整している状況であった。

2024 年 4 月より当院は耳鼻咽喉科常勤化し、音場検査の施行設備を整え、補聴器装用後の効果判定を行っている。

補聴器適合検査の指針にも音場での検査の必要性が明記されているが、地域の実情として普及していない実態がある。

またすでに補聴器を他機関で購入し、補聴器に不満の訴えがある患者に、音場検査の施行と購入補聴器店への情報提供する形で介入している。適切な装用評価、フォローがされずに補聴器が販売されている実態があり、補聴器診療の有用性と地域の補聴器診療の課題に関して検討する。

3. 研究の目的

主要目的：補聴器による装用効果の検討

副次目的：再調整症例における原因の解析

4. 研究の方法

（１） 選択基準

補聴器装用患者全般、当院で作成した症例、他機関で購入した症例を含む

（２） 方法

年齢、性別、臨床所見、聴力検査（標準純音聴力検査、語音聴力検査）、補聴器装用の適合判定結果、きこえの質問紙 2002、難聴の期間、経過、併存疾患、補聴器の購入詳細、活用状況などの診療情報をカルテから収集する。

（３） 検討項目：方法に記載した通り

(4) 危険性・副作用等

難聴患者に対する補聴器調整は、通常診療で行われており、身体的な侵襲やリスクは生じない。補聴器購入にかかる費用は本人負担であり、本研究からの補助はない。

3. 参考文献

- 1) 小川 郁 認知症と加齢性難聴 ―認知症予防対策における補聴器の役割―

Audiology Japan 64, 37～44, 2021

- 2) 日本聴覚医学会福祉委員会：補聴器適合検査の指針（2010）。

Audiology Japan 53, 2010

4. 研究期間

2024 年 12 月 27 日～2029 年 3 月 31 日

5. 研究責任者

耳鼻咽喉科 平岡 晃太